

戦線より還りて

祖山學院雄辯大會優勝銀杯受領

武内觀良

世界に國を爲すもの六十有餘、其の绚烂たる文化を誇り國力の強大を競ふもの亦一、二に留まらぬ、過去に於てはローマ、エジプト、支那等、現代に於てはイギリス有り、アメリカ有り、ロシア有り、而して此れ等の國の過去は現狀は果して如何でありますや。國破れて山河あり悲劇と衰運とのパノラマではなかつたでせうか。その中に在つて皇國日本の姿は如何でありましたでせうか。日本のシンボルたる東海に聳ゆる靈峰は名も不二の山、高千穂の嶺より湧き出る清水は大君の徳を讃へて滾々として盡きず流れ／＼て四海波濤やかに魚族も之に集る。斯くの如き悠久と平和と發展とを兼ねるもの、我國を措いて洋の東西何處に求め得ませうか。建國二千六百年發展より發展へと歴史を繰り擴げ來たつた我等の祖先は、春の花の匂ふが如き平安の御代には、心なき賤の女に至る迄髮に花簪して踊り、秋霜迫る元寇の難には、老も若も悉く大君の御楯とならんと西海に駒を進めたのであります。樂しむ時には共に樂しみ、苦しむ時には共に苦しむ。斯くてこそ島國日本は世界に冠たる別天地たり得たのではなかつたでせうか。然るに近時この崇高なる神國にも天雲しきりに到り、往古の美風は影を潜め個人の利益の前

には全体を忘れ、自由と享樂を求めては國家の前途に思を馳せず、累卵の危きこと今日より甚しきは無いのであります。爲に憂國の志士は或は慨き或は叫び或は身を捨て、國民の覺醒を促したのであります。此の時幸か不幸か彼の蘆溝橋畔の銃聲は自由の眠に沈みたる一億同胞を奮ひ起たせてよりこゝに三周年、今や大陸に颯として颯へる日章旗の下四億の民は靡き、その壯なること未だ世界戦史に見ないのであります。然乍この目標の大なる丈、聖なる丈、其所に要求される努力と犠牲も亦嘗つて世界が味ひしことも無き莫大なものであります。此所に國民總動員は要求され新体制の下、分派對立の餘裕も自由討論の餘地もなく、一身の生活と享樂は同胞の爲に、個人の榮譽と利益は君國の爲に甘んじて犠牲となる可き秋なるにも不拘一部國民の間には未だ自由の眠に耽けて居ります。即ち白晝帝都の眞中に於て堂々と闇取引が行はれて居ります。外には不正行爲が横行し、内には統制經濟に對する不平の聲が勃然と起つて居ります、而して各人の腦裡からは出征軍人に對する感謝の念が漸次薄らいで來て居ります。一方インフレに溢れし連中が歡樂の巷にうよ／＼して居ります。

私は二年五ヶ月の戦塵を浴びて本春三月母國の緊張した生活を胸に抱き乍歸還した者であります。所が一日映畫館の前を通ると怎であります。五十錢、一圓、十圓紙幣を手にした連中が山の如く集まつて我先に入場せんものと先を争つて居るではありませんか。中には辨當を提げて待つて居ります。私はこれを見た時、只々涙が流れて仕方ありませんでした。これが戦争をして居る國であらうか、これが銃後を守つてゐる姿であらうか。這麼ことをして居て良いのだらうか。諸君彼の大陸に於ては同じ血肉を分けた同胞が食ふや食はずに働いて居るのであります。炎熱焼くが如き眞夏にも、あの砂塵と泥濘を衝いて幾百里を強行軍して居るのであります。手足も氷る極寒中天に聳ゆる峻嶒を突破して殘敵掃蕩に勉めて居るのであります。そして己が任務の前には莞爾として天皇陛下萬歳を叫んで幾多の戦友が英靈と化して居るのであります。諸君この時、我々は怎うして享樂的な生活を求めることが出来ませうか。

最愛の夫に戦死された妻が、可愛い息子を亡くした親が、懐かしいお父様を靖國の御社に迎へた子供が、この日本の現状を見た時如何に思ふでありますか。金の有るに任せて綺麗な着物を著うまい物を食べ、今日は映畫に明日は芝居と遊び廻つてゐる連中を見た時、遺族の人々は怎麼氣持がするでありますか。

諸君彼の蔣介石が今尙四川の一隅に在つて抗戦を續け乍如何に宣傳して居るでありますか。即彼等の抗日宣傳に曰「我が

親愛なる同志諸君よ、我等の勝利は正に近づきつゝあり、日本は外交的、思想的、經濟的に行詰まり、有産階級對戦死者遺族の反目は期して待つべきものあり、必ず近き將來に内部より崩壊するであらう。故に愈々以つて抗戦を鞏固にせよ」と叫んで居るのであります。

殷鑑遠からず前者の轍を踏む可からず。彼の第一次世界大戰に於ける獨逸負戦の原因は聯合軍の武力に非ずして實に國內に濶蔓延る自由思想に破れたのであります。此の獨逸が臥薪嘗膽孜孜として勉めること苦節こゝに二十有餘年。各人の自由をヒタ忍びに忍んで、殆んど盲目的にヒツトラに服従してこそ今日の如き榮冠を獲ち得たのであります。一方戦勝の香りに酔ひ自山の生活に享樂を追ひ空虚の年々オヤを送り迎へし英佛は今や全國民より總ての自由を奪ひ取りしのみならず、自由主義の祖國その物が歐洲より正に消えさらんとして居るのであります。

諸君彼の不自由を忍び食ふや食はずに働いて來た國民が勝つて居ります。パンを節約して其の金で大砲を作つた國民が勝つて居るのであります。不足勝ちな食糧を外國へ賣つてその金で飛行機を造つた國民が勝つて居るのであります。

食たい丈食、着たい丈着、美しくなり度い丈化粧し、飲みたい丈飲み。シャベリ度丈シャベリ「我こそは自由なる文化民なり」と誇つて居た國民が敗れて居るのであります。

諸君、實に我國は今や一億一心否一億が眞に一心になつても足らない環境に於かれてゐるのであります。我々は彼の山中鹿

之助が累難の生活に満足し「憂きことの上積れかし」と歌つた如く又日蓮上人の「苦を苦と悟り樂を樂と」悟つて此

懺悔

吾人の見聞し覺知する所の事物。一として吾人に疑懼の念を與へ、昏惑の情を促し、吾人の決意を鈍らし、吾人の確信を搖がすものならざるはないのである。日夜此の間に營々として、得るに喜び喪ふに泣き、榮ゆるに驕り衰ふるに哀んで居るのである。

かくした中の精神問題をば空理に抛棄せずして眞身になつて考ふる時、心に先づ起るのは自己は如何てふ問題である。

デカルトのやうに單純ではあるが、深刻に「吾思ふ故に吾在り。」と結着するか、悶えの絶望に於て小乗者流のやうに「灰身滅智」と斷じて消滅の裡に行きづまるか、それとも、大乘の徒のやうに悶えの絶望をつきとめ、更に一段の努力と懸命の求道に一道の光明を見出して「常樂我淨」を高唱しつゝ向上の大道を濶歩して行くか、何れにしても醉生夢死の徒の自己に對する觀念把持より更に一步若しくは數歩進めたものである。

こゝに「圓融」と云ふ意義の奥底に自分を安住せしめて見ればゴツ／＼といきり立つものは存在しないで、豊かにゆつたり

の難局を切り脱け以つて海外萬里の波濤を開拓せよと叫んで降壇するものであります。

村田海仙

と大きく急潮も緩潮に即して、妙音を出し、春のやうに暢々として停滯の醜なく、秋のやうに清朗にして枯渴の酷に陥らざる世界を見出すであらう。無我の上の我を認め、それと同時に我の上の無我を認め總結しては久遠からの自己に蘇らしむるのである。

これは論理的遊戯から生れ出たる自己の概念ではなくて懸命の經驗に迫られて出た、打てば憂々と鳴るの自己である。切れば血が出る自己である。切れば血が出る自己とは何であるか。凡夫としての自己である。凡夫としての自己と即したる佛としての自己である。佛としての自己に即したる凡夫としての自己なのである。

此處に「日蓮が弟子檀那」なる自覺が生れる「日蓮が弟子檀那」てふ自覺は本化の道に入り來りたる人々の第一の法喜である。こゝで吾人は云ふ。第一の法喜に達着した人々は外面の力強さを見せつゝあるが、それは皮殼の力であつて卵が活躍する鳥として存在するが爲めには、その皮殼を脱せねばならない事で